

都市緑地の利用に関する研究 (I)

— 福岡市油山市民の森の利用状況 —

九州大学農学部 古野 浩子・薛 孝夫・汰木 達郎

緑
地

1. はじめに

油山市民の森は、福岡市南区・城南区・早良区にまたがる油山(標高597m)の東側に昭和44年に開設されたもので、市の中心部から車で約30分のところであり、年間およそ30万人に利用されている。

この報告は、利用者へのアンケート調査の結果をもとに、油山市民の森の利用実態を主に来訪者の目的との関連で把握しようとしたものである。

2. 調査方法

調査は、1992年の4月から6月までの3カ月間、利用者の多い休日に油山市民の森を訪れた利用者1グループに1通ずつの調査票を配布し、帰宅後に記入して郵送してもらった。回答数は509(回収率41%)であった。調査項目は、①個人の属性に関する項目、②油山の利用に関する項目、③環境教育・自然教育に関する項目、の3つに大別される。この報告では、①の一部と②について分析した。

3. 結果および考察

(1) 利用実態の概要

油山市民の森の利用者の居住地区は、南区(26%)、城南区(20%)以下、中央区・早良区と続き、比較的近距離からの利用者が多い。市民の森までの所要時間別にみると、15~30分にピークを持つ分布を示している(図-1)。利用グループの形態別では、両親と子供を含む家族が最も多く36%、次いで夫婦(22%)、どちらかの親と子供(8%)となる。すなわち、家族内のグループだけで3分の2に達する(図-2)。

油山に来た目的を、何をしに来たか(利用目的)と、なんのために来たか(活動目的)との2つに分け、それぞれ複数回答で尋ねた。利用目的で最も多いのが〈散歩・散策〉で、〈ハイキング〉〈自然観察〉と続いている。活動目的では、〈自然とふれあうため〉〈心身をリフレッシュするため〉〈健康のため〉に回答が集中した(図-3)。油山市民の森にはフィールドアスレチック、

展望台、キャンプ場、芝生広場、草スキー場、自然観察の森など多種多様の施設が整備されており、利用者の目的も多彩なものとなっている。

(2) 利用目的とその他の項目の関係

利用目的の多様性に注目して、利用頻度・利用グループ形態・所要時間と利用目的との関連を分析した。

利用頻度に着目して利用目的の傾向をみると、利用頻度の高い人ほど〈散歩・散策〉が徐々に少なくなり、〈登山〉は多くなる。また、利用頻度の高い人では〈ドライブ〉を目的とする人が極端に少なくなる(図-4)。活動目的としては、〈自然とふれあうため〉が常に高い割合を占め、〈健康のため〉は利用頻度の高い人ほど多くなる傾向がある(図-5)。

利用目的では〈自然観察〉が、活動目的では〈自然について知るため〉が、年間12回前後においてピークを作っている。これには、自然観察の森で行われている自然観察会などの行事に定期的に参加する人の存在が関与しているのであろう。

利用グループの形態によって分類して活動目的をみると、〈自然とふれあうため〉は親子と家族で他よりかなり高くなっており、一人で来た人と夫婦で来た人では〈健康のため〉を選ぶ率が高い(図-6)。

同様に所要時間別にみた利用目的では、所要時間が長くなると〈自然について知るため〉が多くなる傾向があり、〈自然とふれあうため〉を挙げた人は30~45分にピークがあってそれより所要時間が長くなると漸減の傾向がある(図-7)。

4. おわりに

油山市民の森を訪れる人の目的は多様である。多目的な利用に対応することは重要な役割であるが、両立の難しい利用を混在させていくことは個別の要求に十分に応えられなくなるという欠点もある。

今後は、都市緑地としての市民の森の役割を他の緑地との比較によって明らかにするとともに、利用状況をさらに分析することによって、より適切な整備や管理運営について検討していきたい。

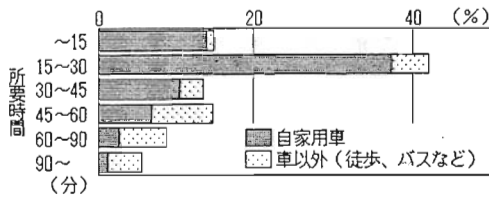


図-1 市民の森までの所要時間

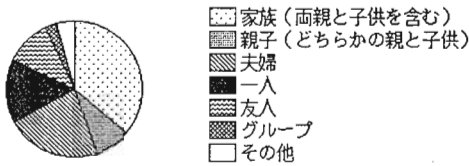


図-2 市民の森の利用グループの形態

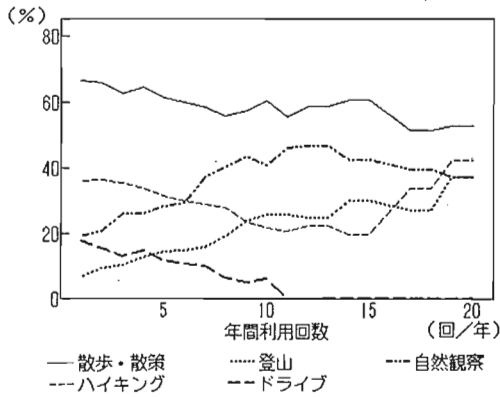


図-4 利用頻度と利用目的との関係

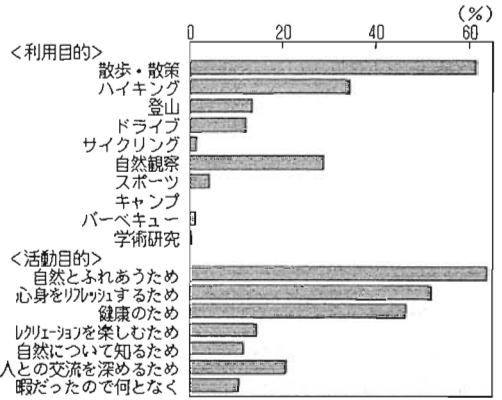


図-3 市民の森の利用目的と活動目的(複数回答)

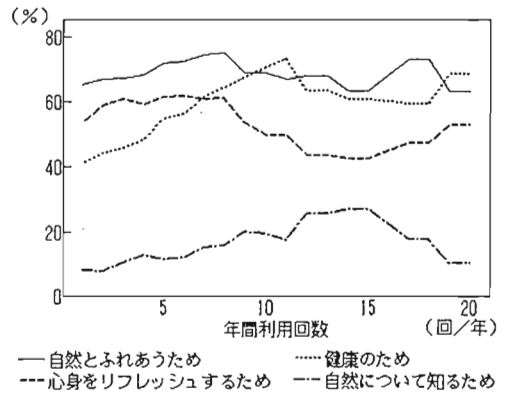


図-5 利用頻度と活動目的との関係

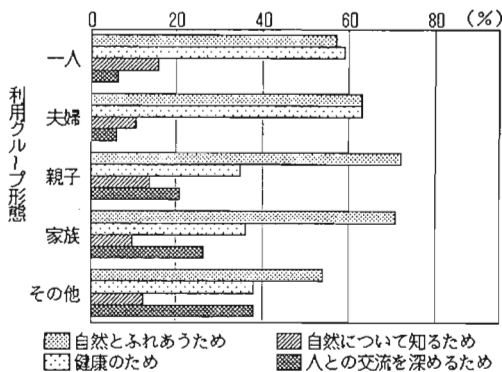


図-6 利用グループの形態と活動目的との関係

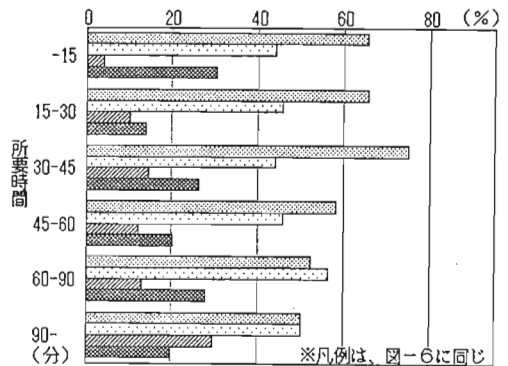


図-7 所要時間と活動目的との関係